

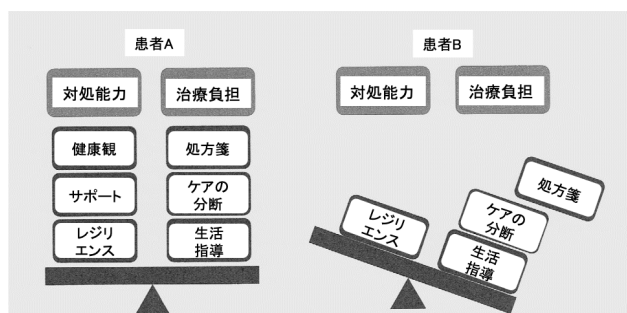


看護学生向けの非がん慢性疾患患者への 緩和ケアの視点を養うためのシナリオ教材開発

キーワード 緩和ケア, 非がん慢性疾患, 教材開発

研究内容

日本の非がん患者への緩和ケアは遅れています。看護基礎教育では、がん看護を主眼に置いており、非がんに対する教育プログラムがありません。本研究では、看護学生向けに、心不全や呼吸不全などの慢性疾患患者への緩和ケアにおける看護アセスメント・ケア計画ガイドの制作からシナリオ・動画教材の制作・効果検証を目的としました。4年間の研究計画です。アセスメント・ケア計画ガイドは、Mutimorbidity（多併存疾患）におけるバランスガイドを基盤にします。図の患者Aのように対処能力と治療負担がつり合い、治療・ケア計画を継続できることを、非がん慢性疾患の緩和ケアで目指す状態と考えています。2024～2025年度は、特定機能病院、地域医療支援病院の看護師を対象に、基本的緩和ケアの実践を構成する要素を見出すインタビュー調査を実施しています。



能力と治療負担のバランスモデル

Mercer et al. (2014) の ABC of Mutimorbidity より引用した対処能力と治療負担のバランス図を大浦 (2021) の日本語訳に修正した。

関係論文、特許・著作物等の知財情報、連携の実績

- ・太田美帆, 大黒えりか, 村上希, 有澤舞「非がん慢性疾患患者への緩和ケアに焦点をあてた看護師・看護学生に対する教育と評価－文献レビュー」日本慢性看護学会誌 17 巻 suppl 号, 64-64, 2023.
- ・太田美帆著「通院を中断していた 2 型糖尿病患者」78-85, 河口てる子編『熟練看護師のプロの技見せます! 慢性看護の患者教育: 患者の行動変容につながる“看護の教育的関わりモデル”』メディカ出版, 2018.

社会連携・産学連携の可能性

今回は看護学生向けの教材開発ですが、将来的には、緩和ケアが、がん患者だけではなく、非がん慢性疾患患者にも普及するように地域住民に発信したいと考えています。